

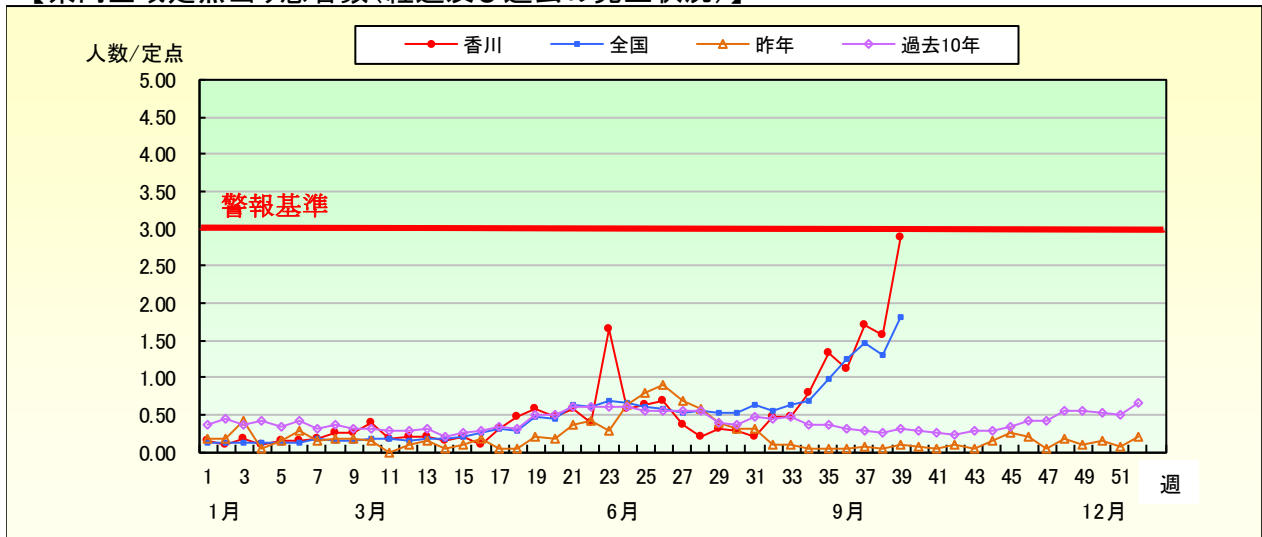
# 咽頭結膜熱に注意！！

咽頭結膜熱は、小児の急性ウイルス性感染症であり、通常夏季に流行する感染症です。

香川県では、9月頃より定点医療機関からの報告数が増加しはじめ、第39週（9月25日～10月1日の週）では、1定点医療機関あたり2.89人となりました。今後、さらに流行する可能性がありますので注意が必要です。

石けんと流水による手洗い、うがいをするなど感染予防に努めましょう。

【県内全域定点当たり患者数(経過及び過去の発生状況)】



## ○咽頭結膜熱とは？

咽頭結膜熱とは、アデノウイルスの感染により、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎といった症状を来す、小児に多い病気です。通常、夏季に流行し、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成しますが、冬季にも流行が見られることもあります。

## ○感染経路は？

通常、咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによる感染（飛沫感染）、あるいは、ウイルスが付着した手やタオルなどの触れたものを介する感染（接触感染）です。

## ○症状は？

発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭炎（のどの痛み、腫れ）、結膜炎（目の充血、痛み、目やに）があり、まぶしかったり、涙がでたりします。

特別な治療法はありませんが、対症療法が中心となり、ほとんど自然に治ります。吐き気、頭痛の強い時、咳が激しい時は早めに医療機関に相談してください。

## 予防のポイント

- ☆アルコールは効きにくいいため、石けんと流水による手洗いやうがいをしましょう。
- ☆感染者との密接な接触は避けましょう。
- ☆タオルの共用は避けましょう。

